

2023年度 第2回行政改革推進委員会 会議録（要旨）

【日時】 2023年8月4日（金）

【場所】 須坂市役所本庁舎3階 305会議室

【出席者】 別紙参照

【次第】 1 開会

2 総務部長挨拶

3 議事

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

(2) 地方創生関連交付金事業の効果検証について

4 その他

5 閉会

【議事】

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

政策推進課長より概要説明、施策所管部局長より施策内容説明

- ・重点戦略①「稼ぐ地域を作るとともに、安心して働けるようにする」
- ・重点戦略②「須坂市への新しい人の流れを作る」
- ・重点戦略③「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」
- ・重点戦略④「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」

質疑応答

<A 委員>

2点要望がある。1点目は、須坂市の人口を増やしたい課題についてだが、東京から来て新規で農業をやっていただくという活動も良いと思うが、人が住む場所を選ぶタイミングや、その理由を明確にしてやっていただいた方が効果が出るのではないかと。引っ越しとなると、大学等に進学する時、就職する時、転勤等タイミングがあると思う。この辺の地域なら殆どの人が須坂・小布施・高山・中野・長野から選ぶと思うが、その時に須坂に住むという選択をいかにしてもらうか。効率的に進めるのであれば、このような人たちを中心に、どうやって呼び込むのかというところを重点的にやった方が良いのではないかと。

2点目は、消防団員の確保の問題だが、私も消防団員を16年ほどしており、世間からの目が厳しい状況は分かっている。須坂はコロナをきっかけに消防団員のあるべき姿を検討して頂き、本来消防団員がやらなければいけない事に要点を絞って、かなり活動しやすくなった。

新しい人を入れることも大事だが、今やっている人達にいかにか長くやってもらえるかも今後の課題になると思う。辞めていく人の意見を聴くと、簡単な活動以外に大会や飲み会が重なるとこれ以上協力できないという意見がある。やはり必要な事だけに規模を絞ってやっていくことが継続的な消防団員の確保に繋がると思うので、今後話し合いを継続的にやっていくことが大事。よりやりやすく、やりがいのある消防団員となっていくと、若い人たちもこれから活動しやすくなると思う。

<総務部長>

人口増の関係だが、委員のおっしゃる通りだと思う。須坂市は移住支援をしているが、大きい都市のように移住雑誌に多額な広告費用をかけた広告する事が出来ないで、情報をホームページ、動画でPRしている。

確かに移住を考えている人がいきなり須坂というのも難しいとは思う。東京に行って須坂市のブースを作ってPRはしているが、東京の人は須坂ではなく、長野市周辺、善行寺界隈をまず目指して、その中で、という動きもあるだろう。長野地域周辺の8市町村で中枢連携都市圏という広域の活動をしており、お互い協力して移住支援をするという動きがある。まずは長野の北の方に興味を持ってもらい、その中で須坂市をPRするというをやっている。

<消防長>

今年度については、須坂市の操法大会とラッパの吹奏大会を中止して、今後どうあるべきかを見直しているところである。また、操法大会に代わる基本訓練を各分団に一任して月に1回やり始めている。

新規団員は欲しいところだが、現役の団員にいかにか長くやっていっていただくかを非常に大事なアドバイスと受け止めており、今後の参考にしたい。

<B委員>

女性の登用に関して、「結婚・出産・子育ての希望を叶える」という重点戦略で、女性を4割登用しなさいと言いつつも、現実には女性の特性を活かせるような場が与えられているのだろうか、と感じる。資料に女性が区の役員として、また女性が関わりやすい取組を工夫していきたいという目標が書かれているが、各区や市ではどんな風に女性が活躍できる場所を用意しているのか。具体的に何か取組をしているのか。

もう1点は、「すべての人が個性や能力を発揮し輝けるまち」を目指している中で、農業の活性化の内容で農業の担い手不足に関して、国が立ち上げた農福連携等推進ビジョン＝農業と福祉を連携して事業をやっているというものがあるが、農業の担い手という部分で、須坂市は障がいのある方々が関われることをどのくらい用意しているのか。

また、障がい者も就労を目指して税金を納められるような体制を作ってあげなければいけないと感じているが、須坂市の具体的な考え等を聞かせて欲しい。

<社会共創部長>

市の審議会における女性委員の登用の割合は、現在 34%ほどで、2025 年度には目標の 40%を目指して取り組んでいるが、なかなか数字が上がっていない。考えているのは審議委員依頼の際、女性何名と人数を指定するという事。しかし、審議会の内容によっては女性の方では難しい部分があるので今後検討していきたい。

区の女性役員の登用については、69 町中 51 町に女性の役員がいる。今までは区長・副区長・会計の主要な役員に女性はいなかったが、今年初めて小山町に女性区長が誕生した。

主要な役員に関しては、業務量もあり、夜の会議が多く懇親会もある。女性は家事等で夜が忙しいこともあるので、昼間の会議の開催、懇親会については本当にやる必要があるのかについても地元の区長さんと話しをして、なるべく女性を多く選出して頂けるようお願いしている。

具体的な女性登用のあり方についてだが、人権同和・男女共同参画課において、毎年「男女共同参画いきいきフォーラム」を開催し、参加して頂いたり、男女共同参画いきいき通信・広報すざか等を活用して、男女共同参画意識を図っていきたい。

各種講演会など女性の参加が増えるよう、時間等についても工夫していきたい。

<B 委員>

ありがとうございます。登用のパーセントにこだわらないので、女性らしさ活かせる場があったら積極的に登用していただけると有難い。

<産業振興部長>

農福連携について、今回の施策の中ではこの軸はありません。農水省でも農福連携等推進ビジョンをこれから進めていこうという状況である。現状では施設の方で農家さんにお手伝いに行く、あるいは野菜を作って販売していることは承知しているが、須坂市としては具体的な支援が出来ていない状況。今後、このような活動についても情報をいただきながら、どんな支援ができるか深めていきたい。農業にとっても担い手が増えることは有難い事なので、研究していきたい。

<B 委員>

是非、積極的にお願い致します。

<健康福祉部長>

障がい者福祉関連で補足させて欲しい。市内の障がい福祉の事業所の中では、農業を体験しながら障がい者が働ける場がある。週に何日か就労もでき、市で相談を受け、その事業所に行ってみないかと声掛けをさせて頂きながら進めている時もある。今後も事業所と協力し福祉の方を進めていきたい。

今年度障がい者福祉計画を策定することになっている。この作業を進めながら検討していきたい。

(2) 地方創生関連交付金制度について

政策推進課長より概要説明、事業担当部局長・課長より内容説明

- (1) 「まるごと博物館構想」を核とした「人」・「地域資源」で紡ぎ出すまちの元気創出事業
- (2) 子育て・就労総合支援拠点整備事業
- (3) 子育ても働きがいも！子育て・就労支援の総合応援プロジェクト事業
- (4) 「信州須坂 健康食の研究開発拠点&農家チャレンジショップ」整備事業
- (5) 恋人の聖地広域市町村連携によるデジタル・シティプロモーション事業
- (6) 恋人の聖地広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ事業

質疑応答

< A委員 >

子育ても働きがいも！子育て・就労支援の総合応援プロジェクト事業は、すごく良い活動だと思う。要望として、業務スキルアップ講座の企画・開催の内容だが対象者が育児が必要な子育てママ中心とあるが、子育てをしながらスキルアップしていくのは難しいと思うので、結婚した時点で子育ての段階を意識させ、スキルアップを支援し、子育てをバックアップし社会復帰出来るような仕組みにした方が効果的なのではないか。子育てママと限定する必要がなく、学びたい人が学べばいいと思う。沢山の人が受講できる方がいい。

<教育次長>

子育てと働き方の両立をメインテーマとして掲げていく中で、業務スキルアップ講座の開催、企画をしている。現在育児休業制度がだいが浸透してきており、企業の調査でも結婚しても仕事を辞めない人が増えている。どのような形で支援できるかを検討していきたい。シルキーの2Fでも就労支援、相談を行っているので、連携していきたい。